

やっぱり大工さんの腕

東日本震災復興しんぶん

発行
東京土建足立支部災害対策委員会

村山仕事対策部長・畑山さん（五反野）

岩手の大槌町で技術支援活動で汗

全建総連では被災地の技術支援活動をおこないました。支援の内容は住宅の一部損壊もしくは軽度半壊住宅の応急保全工事です。例えば窓とか開口部の合板などでの応急修理

です。足立支部では全建総連の呼びかけにこたえて四月十五日から十八日までの四日間、支部仕事対策部長と五反野分会の畑山さんを現地に派遣しました。

村山さんは姪さんが被災し死亡しています。畑山さんは若手生まれですが育った青森県八戸市で親戚が被災されています。二人は「少しでも役に立ちたい」という思いから支部の

要請にこたえてくれました。修繕場所は岩手県大槌町、釜石市の隣町です。

初日は（写真上）に床下に堆積した汚泥除去のための作業です。床下をきれいにするためには畳から床板をはずしてからの作業となり、「大工さんの腕と道具」が頼りです。

二日目は高圧洗浄機で家の中の泥おとしです。「持って行くか迷った」という洗浄機が大活躍でした。「大工さんたちはすごい」というお

6月5日の住宅デーで多くの分会で「風評被害を吹っ飛ばせ」とばかりに野菜販売を取り組みました。東京土建はこんなことまでやるのかと来場者から喜ばれました。

風評被害を吹っ飛ばせ

この野菜を出荷している農民連ふるさとネットワークの担当者は「東京土建足立支部さんから始まった野菜販売は東京土建各支部に広まっています」と感謝の言葉を述べられています。

礼の言葉に「本当の大工の腕をみせられなかった...けど」と二人は苦笑いでしたが喜んでもらった笑顔に疲れも吹っ飛んだとのことでした。

被災地の食事は日頃の半分（?）。特に若い畑山さんはお腹も小さくなったとのこと。帰路には牛肉の名産地、前沢近くで焼肉を食べてきたとか...。



左が村山部長 右が畑山さん

首都圏や兵庫県などからも大勢の全建総連の仲間が支援に入りました。全国から集まった資材を使って壁や床の洗浄、床板の張替えなどの作業に汗をなが

しました。このような献身的な活動が地元岩手のテレビや新聞でも紹介され全建総連の名が広くなりました。地元の方が「建」のジャンパーを見て「我が家もみてほしい」という声も。

地元、テレビ、新聞も報道

石巻市で汚泥除去ボランティア

入谷舎人の佐藤清司さん

「岩手生まれなので少しても人の役にたきたい」とボランティアに参加したのは

入谷舎人分会の佐藤清司さんです。足立支部から一人なので心細かったの

ですが東京土建の仲間や他の組合員たちと四泊五日頑張ってきました。



佐藤さんは「岩手のボランティア」を希望しましたが今頃から宮城県石巻市に。現地の被災地はテレビ・新聞で見さんの想像以上で惨状にびっくり。

近くの神社の境内も瓦礫に埋まっています。

ボランティアは海からの上がった汚泥の片付け。三月十一日から二ヶ月近くになり、ヘドロ状態の汚泥は臭いも強くこびりついていたりして

一般ボランティア募集

応募者が多く締切となりました。

全建総連技術支援活動

福島県内の大工さんが大変になった場合に応援できる組合員の登録となります。

二人一組
福島県内の応急仮設現場
二週間交代（一棟を完成させる）
日給20,000円（諸経費・食事を含む）

希望者は
支部まで問い合わせください。



佐藤さんは「焼鳥と一杯飲んでいける分けではありません。」
この焼鳥屋さんの二階

焼鳥屋さんが支援センター

ます。ほとんどを作業で進めて行く人界戦術です。大変な作業ですがこれを家族だけではありませぬ



組合員募金

支部では組合員募金を行っています。募金を忘れていたり募金を継続していただける方は宜しくお願いします。

組合員さんから寄せられた募金、5,057,736円を本部へおくりました。

が災害対策連合、東日本大震災共同支援センターとなつていゝるのです。
寝る場所も大広間に雑魚。食事も外食で「なんとか食べる」状態。
このよつなセンターですが地元のボランティアを受け入れる団体やつと借りられていゝるのです。国は政権争いしてはいますがボランティア受け入れ対策も出ていない政治の無策に怒りを感じます。
日頃から真面目な佐藤さん。人の役にたてた充足感を持ち帰ってきました。
